

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時にスタッフで理念を作り上げた。スタッフには、入職時に理念とその意味を説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に復唱し、スタッフ間に理念を浸透させている。ケアプランや日々の支援に関しては理念を基に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に理念についての説明を行い、玄関の分かりやすいところに理念を掲示している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町や公民館行事に積極的に参加している。散歩時にはこちらからの挨拶に努めることで、最近では近所の方から話しかけて頂く様になってきた。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し毎月入居者と一緒に区費支払いに出掛けている。区長や民生委員の方より行事の情報を頂き、参加に努めている。町の文化祭に利用者の作品を出品したり、近日開催のソフトバレー大会にも参加予定。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度は3名の中学生の職場体験を受け入れ、高齢者や介護の現場に触れる機会を提供している。来年度より地元の高校、短大より実習施設としての申請を頂いており、受け入れ予定。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員にて自己評価を実施し、管理者によってまとめている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、外部評価や今後行われる情報公表制度についてなど指導頂いている。又、3年経過後のショートステイについてもアドバイス頂いている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネージャー連絡会、事業所連絡会へ参加し、必要時にはその都度相談を行っている。又、12月に開催予定のホームの行事案内を行い、参加して頂ける様に働きかけている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修は、管理者だけでなく職員も積極的に受講している。研修後は月2回のスタッフミーティングにて報告を行い、全スタッフへの浸透に努めている。	○	現在、制度を活用予定の入居者の方がいらっしやるので、再度スタッフの学びの場として活用していきたいと思う。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修に参加し、学ぶ機会を設けている。入所前、家族による暴力の可能性のあった入居者に対し、他の家族からの申し出によりしばらく面会者・電話連絡者に対し、全スタッフで注意を払った。現在では家族関係も良好となっております。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長期入院で退所を余儀なくされた入居者には、家族・主治医・ソーシャルワーカー・看護師と話し合いの場を設け、退所後の受け入れや他施設の紹介を行い、不安解消できた。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とのコミュニケーションを密にし、気 軽に意見や要望を言って頂ける環境を提供し ている。又、運営推進会議でも、毎回別の入 居者が参加され意見を頂き、不満・意見が あった場合はスタッフ間で話し合い、解決に 繋げている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月、個別の新聞を作成し、ホームでの生活 状況を伝えている。又、健康状態など変化が 合った場合は随時、家族へ電話報告してい る。家族連絡会を年2回開催し、異動スタッ フの紹介をしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時、家族へ苦情相談窓口を、文書及び口 頭にて説明している。又、玄関には苦情解決 制度のご案内を掲示し、第三者委員会の告示 を行っている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	直接意見が言いにくい場合は、ロッカール ームに設置している意見箱を活用できる環境で ある。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や外出の予定日などはスタッフの人員を 増やし、事故がない様配慮している。又、突 発的な時でもスタッフの勤務調整はスムーズ に行えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度の離職者は1名に留まっており、ス タッフも定着し、馴染みの職員による介護を 実施している。やむを得ず離職の場合は、引 き継ぎ期間を設けることが出来るように、次 の職員を採用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の職員を採用しており、定年後のスタッフも数名いる。職員の能力により職務内容も考慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念の中にも自己決定の尊重を謳っており、常に利用者本位のケアを心掛けている。対応について不明な点は、全スタッフで協議している。	○	今年度、近日中に開催される研修に参加予定である。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に研修受講の呼び掛けを行い、学ぶ機会を提供している。受講するにあたっては、勤務の調整を考慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不審者対策の講習会を近隣の施設と受講し、情報交換を行っている。地域で発足予定である、介護サービス事業所連絡会への加入を申し出ている。	○	現時点では管理者のみの交流に留まっているが、今後はスタッフも他のグループホームを訪問したりし、交流できるように発展させていきたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1～2回の食事会を行っている。又、映画・レジャー施設などの割引を福利厚生により利用できるようになっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回スタッフが自身で自己評価を行い、それに対して上司が評価を行っている。臨時職員の正職への採用も、1年から6ヶ月に短縮し、職員の意欲向上に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
日常的に買い物や散歩の機会を設け、希望時にはお寺やパチンコ店等への外出も行っている。					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族だけで相談に来られた場合でも、可能な限り本人にも来所して頂き、直接話を聞き、安心して入所できるように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学は随時受け付けている。入所前には本人、家族と直接面談する機会を設けている。又、必要に応じ家族のみの面接や、本人のみの面接を実施している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床などの理由ですぐに入所できない方に対しては、在宅サービスや他施設の案内を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には面接、見学を含め、本人様に出来るだけ来所して頂く様お願いしている。入所に不安のあった利用者の方もホームの様子を見学された事で、安心し喜んで入所して頂けた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を把握し、農家の方には作物の作り方を教えて頂いたり、保育士の職歴がある方からは工作などを教えて頂き、一緒に作品作りを行っている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出時の付き添いをスタッフだけで行うのではなく、家族へも依頼し、同行して頂けるように働きかけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相談時だけでなく、入所後も家族の介護に対する不平・不満を傾聴し、精神的負担の軽減に努めている。帰られる際は「聞いてもらえて気分が楽になりました。」の言葉あり。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のお寺やお墓、日常的に続けてきた神社参りなど、スタッフと一緒に出掛ける支援を行っている。	○	時にはご家族と出掛けて頂けるように、ホーム側から家族に働きかけていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事時など、コミュニケーションを利用者同士がとりやすい様、座席に配慮し、必要時には、座席の変更を随時行っている。又、トラブルにならないように早めに仲裁に入り、良好な関係を保てるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により退所された利用者に対しては、病院受診時に病室を訪室し、声を掛けるようにしている。又、家族の方にも、いつでも訪ねていただけるように声掛けを行っている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のスタッフとのコミュニケーションや、面会時に家族に尋ね得られた情報を基に、センター方式を用い、ケアプランを作成している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接に始まり、日々のスタッフとのコミュニケーションや介護の中で得た情報を、生活日誌や申し送りノートに記録し、その後の支援に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	休日明けでも生活日誌や申し送りノートを確認し、不在時の状態変化の把握を全スタッフ徹底している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の要望を聞いている。入居者一人一人に担当者がおり、各個人に対し深く関わる事が出来ている。担当者が中心となり、月1回のモニタリングを実施しプランに反映させている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回及び状態変化時にモニタリングを実施し、プランの見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に毎日の様子や実施の状況を記録し、モニタリング時に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時は頻繁に病院に出向き、病状把握に努めると共に、選択の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	所轄の警察署より防犯対策の講習会を行って頂き、訪問者に対する初期対応を学び、安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	満床などの理由ですぐに入所できない方に対しては、在宅サービスや他施設の案内を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所の相談を数件頂き、相互の情報交換を行った。又、紹介された入居者の状態変化時等報告し、情報の共有に努めた。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後は母体病院が主治医となり、週1回の往診を行っている。診療項目以外でも母体病院を通し、他医療機関を紹介できる環境である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院の主治医と相談し、近隣の認知症専門医を受診している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師を採用しており、日常の健康管理だけでなく、状態変化時の対応や指示を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にスタッフが病院へ行き、馴染みの顔を見せる事で安心して療養できるよう努めている。病院の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り合い、早期退院を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時より最期までホームで過ごしたいと強い希望があった方で、入院後もその意思は変わらず、関係者間で話し合いの場を持った。ホームでも対応についてスタッフ間で協議を行った。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの生活が困難になられた場合に備えて、入所時に他介護保健施設を紹介し、入所申し込みを呼び掛けている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族からの情報提供だけでなく、医療機関や在宅のケアマネージャー等からも情報提供を頂き、入所前にスタッフ間で対応を協議している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る際は声掛け、ノックを行い入室する。トイレ誘導時は、可能な限り扉の外で待機している。個人記録は鍵の着いた場所に保管し、個人情報についてはシュレッダーで処理している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力により筆談やジェスチャーを用いたり、必要時には居室や廊下のソファ等で、マンツーマンで利用者の方が自分の思いを伝えやすい環境を提供している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れに決まりはなく、声掛けしても最終的な決定は利用者本人に任せている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前より行かれていた美容室へ、家族の協力を得て連れて行って頂いている。個人の買い物には、基本的に本人に出掛けて頂き、好みの物を選んで頂いている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合うように、嫌いなものを外し別の物を提供したり、味付けを変えたりしている。野菜切りや皮むき、配膳の準備、食器拭き等職員と一緒にやっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望により夏場はビール、現在は酒を飲酒されている。酒の買い物も本人と一緒に掛付け、選ぶ楽しさも提供できている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。失敗のないように早めの誘導、声掛けを行っている。それにより入所時、紙パンツ使用の方が布パンツ使用へ移行でき、オムツ使用の方が紙パンツへ移行でき、現在オムツ使用の方はいない。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の健康状態を把握し、くつろいだ入浴が出来るよう、入浴剤を使用している。利用者の方の状態や希望を伺いながら入浴を行っている。拒否のある方は時間をおいたり、スタッフを代えたりして早く入浴して頂けるように努めている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠時にはホットミルク等を提供したり、テレビ視聴をされたりして、落ち着いて入床して頂ける様に支援している。入床時パジャマに着替え眠られることにより、安心して眠られる方もいらっしゃる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯たたみ・干し、食事作り、戸締りなど好きな事・出来る事を把握し、得意な事で役割や生き甲斐が持てる様に支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は本人所持金があり、自己で管理されている。お金を所持する事で安心される方には、定期的にスタッフが確認を行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物はほぼ毎日行っている。スタッフでも計画をしているが、入居者より季節の行事や花の見学等希望があった時は、すぐに計画を立て対応している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には本人の希望を尋ね、一日を自由に過ごす機会があり、遠方に出掛けたり、好きな物を食べに行くなどの支援をしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との交流が維持できるよう電話で話す機会をケアプランに取り入れたり、手紙が届くと返事を書かれるよう促し支援している。	○	暑中見舞いや年賀状を、本人に書いて頂く機会を作り、家族との交流に繋げていく。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会に来られた時は、職員側から挨拶を行い、お茶やお菓子を提供し、ゆっくり過ごせる空間を提供している。学生時代の古い友人の方も定期的に面会に来て頂き、入居者の方と一緒に写真を撮ったりし、次回も気軽に来て頂ける様工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや声掛けで事故防止に努めており、行動制限や身体拘束は行っていない。身体拘束にならないよう、対応方法についてスタッフ間で協議を行っている。	○	管理者だけでなく、スタッフが身体拘束について学ぶ機会を設けていきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠しており、自由に出入りが出来るようにしている。帰宅願望が強い入居者は細やかな見守りを行い、状況に応じて傾聴・散歩の機会を設けている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にはセンサーが設置されており、入居者・外部者の出入りを把握し事故防止に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人での所持品を把握している。事務所保管・個人所有の危険物はチェック表を活用し、毎日確認を行っている。洗剤や消毒液などは棚の上に置いたりし、目の届かない所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を活用し、今後の対応策等を話し合う場を持ち、事故防止に努めている。行方不明者が出た場合には、写真付きの情報提供書を作成している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員がバイタル測定できるように、入職時研修を行っている。新人職員は消防署主催の救命講習に参加している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導による避難・消火訓練を行っている。日勤・夜間帯の訓練を実施し避難・誘導の方法を身につけている。運営推進会議で地区の代表の方に協力を呼び掛けている。	○	地震・水害時の訓練を行ってきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に起こり得るリスク・対応について家族に話し、理解を頂いている。ヒヤリハットを報告された場合は、全職員で対応策を話し合い、事故に繋がらないようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行っている。異変・発見時には看護師に報告・指示を仰いでいる。又、朝夕の申し送りを確実にし、経過を共有している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護生活日誌に処方箋を綴じており、薬の内容・副作用等の把握が出来るようにしている。薬の変更追加時には看護師より報告・申し送りノートに記載し伝達している。飲み忘れがない様、服薬チェック表に記入している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な方には、トイレ誘導時・入浴時に腹部マッサージや牛乳飲用を行って頂き、排便を促している。食事は食物繊維を取り入れる献立を工夫している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声掛けが必要な方や一部介助・全介助の方等個別に対応している。月1回、訪問歯科によるブラッシングの指導等により、口腔内の清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量・水分摂取量を記録し把握している。メニューはスタッフが入居者・調理師と相談を行い、栄養士による確認を行っている。摂取量が少ない時は好みのものを尋ね、摂取量を確保している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成しており、手洗い・うがいの励行、ハイターや次亜塩素酸を用いて、消毒を実施し予防に努めている。本人・家族了承のもと予防接種も実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品は毎日熱湯消毒を行い、定期的に冷蔵庫・食器保管庫の清掃を行っている。又、冷蔵庫・戸棚内の食品の賞味期限の把握も確実に行っている。ほぼ毎日買い物に出掛け、新鮮な食品での調理を行っている。		
]					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や玄関に花鉢や花を飾り、季節感を出している。日常の写真を飾り、ホームでの生活が分かるようにしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明に気を付けている。壁飾りや玄関やフロア内に四季の花を飾り、季節感を感じられるようにしている。トイレは24時間換気をしており、廊下やフロアまで臭わないよう、使用後はドアを閉めるよう徹底している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓側にソファを置き、気の合った入居者同士で談話し過ごされている。一人用の椅子では日光浴をされながら、気持ちよさそうにうたた寝される姿が見受けられる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持ち込みを依頼して、冷蔵庫・テレビだけでなく、御主人の遺灰を持ち込まれ、毎日手を合わせられている。家族の写真や手作りの作品を飾り、安心して過ごせる様な居室作りを行っている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物内は24時間、換気されている。1日3回、温度・湿度のチェックを行い、必要に応じ、換気・霧吹き・エアコン温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、車椅子でも歩行器でも自由に移動できるスペースが充分にある。廊下・ホール・トイレ・脱衣所等、手すりがついており、残存機能を活かし安全に生活できるようになっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	筆筒の引き出しにラベルを貼り、片付ける場所が分かるようにしている。独自で困難な方も、スタッフと行うことで混乱なく行えている。居室が分からない方は、入り口に分かりやすいように表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に小さい畑があり、畑の手入れや収穫等を一緒に行っている。収穫や草とり等、入居者が自由に出入りされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に、スタッフで理念を作り上げた。スタッフには入職時に、理念とその意味を説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に復唱し、スタッフ間に理念を浸透させている。ケアプランや日々の支援に関しては、理念を基に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に理念についての説明を行い、玄関のわかりやすい所に理念を掲示している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町や公民館行事に積極的に参加している。散歩時にはこちらから挨拶に努めることで、最近では近所の方から話しかけて頂く様になってきた。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、毎月入居者と一緒に区費支払いに出掛けている。区長や民生委員の方より行事の情報を頂き、参加に努めている。町の文化祭に利用者の方の作品を出品したり、近日開催のソフトバレーにも参加予定。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度は3名の中学生の職場体験を受け入れ、高齢者や介護の現場に触れる機会を提供している。来年度より地元の高校、短大より実習施設としての申請を頂いており、受け入れ予定。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員にて自己評価を実施し、管理者によってまとめている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、外部評価や今後行われる情報公開制度についてなど指導頂いている。又、3年経過後のショートステイについてもアドバイス頂いています。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネージャー連絡会、事業所連絡会へ参加し、必要時にはその都度相談を行っている。又、12月開催予定のホームの行事案内を行い、参加して頂ける様に働きかけている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修は管理者だけでなく、職員も積極的に受講している。研修後は月2回のスタッフミーティングにて報告を行い、全スタッフへの浸透に努めている。	○	現在制度を活用予定の入居者の方がいらっしゃいますので、再度スタッフの学びの場として活用していきたいと思う。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、学ぶ機会を設けている。入所前にご家族による暴力の可能性のあった入居者に対し家族からの申し出によりしばらく面会者、電話連絡者に対し全スタッフで注意を払った。現在では家族関係も良好となっております。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長期入院で退所を余儀なくされた入居者には、家族・主治医・ソーシャルワーカー・看護師との話し合いの場を設け、退所後の受け入れや他施設の紹介を行い、不安解消できた。		

福岡県 グループホームとまもと 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とのコミュニケーションを密にし、気 軽に意見や要望を言って頂ける環境を提供し ている。又、運営推進会議でも、毎回別の入 居者が参加され意見を頂き、不満・意見が あった場合はスタッフ間で話し合い、解決に 繋げている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月、個別の新聞を作成し、ホームでの生活 状況を伝えている。又、健康状態など変化が あった場合には、随時家族へ電話報告して いる。家族連絡会を年2回開催し、移動スタッ フの紹介をしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時、家族へ苦情相談窓口を、文書及び口 頭にて説明している。又、玄関には苦情解決 制度のご案内を掲示し、第三者委員会の告示 を行っている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	直接意見が言いにくい場合は、ロッカール ームに設置している意見箱を活用できる環境で ある。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や外出の予定日などは、スタッフの人員 を増やし、事故がない様配慮している。又、 突発的なときでもスタッフの勤務調整はスム ーズに行っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度の離職者は1名に留まっておりスタッ フも定着し、馴染みの職員による介護を実施 している。やむを得ず離職の場合は、引き継 ぎ期間を設けることができるように、次の職 員を採用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の職員を採用しており、定年後のスタッフも数名いる。職員の能力により、職務内容も考慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念の中にも自己決定の尊重を謳っており、常に利用者本位のケアを心掛けている。対応について不明な点は、全スタッフで協議している。	○	今年度、近日中に開催される研修に参加予定である。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフに研修受講の呼び掛けを行い、学ぶ機会を提供している。受講するにあたっては、勤務の調整を考慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不審者対策の講習会を近隣の施設と受講し、情報交換を行っている。地域で発足予定である介護サービス事業所連絡会への加入を申し出ている。	○	現時点では、管理者のみの交流に留まっているが、今後はスタッフも他のグループホームを訪問したり、交流できるように発展させていきたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1～2回の食事会を行っている。又、映画・レジャー施設などの割引を、福利厚生により利用できるようになっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、スタッフが自身で自己評価を行い、それに対して上司が評価を行っている。臨時職員の正職への採用も、1年から6ヶ月に短縮し、職員の意欲向上に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族だけで相談に来られた場合でも、可能な限り本人にも来所して頂き、直接話を聞き安心して入所できるように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学は随時受け付けている。入所前には本人・家族と直接面談する機会を設けている。又、必要に応じて家族のみの面接や、本人のみの面接を実施している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床等の理由ですぐに入所できない方に対しては在宅サービスや他施設の案内を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には面接、見学を含めて、本人様に来ただけ来所して頂く様お願いしている。入所に不安のあった利用者の方も、ホームの様子を見学された事で、安心して喜んで入所して頂いた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を把握し、農家の方には作物の作り方を教えて頂いたり、保育士の職歴のある方からは工作などを教えて頂き、一緒に作品作りを行っている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出の付き添いをスタッフだけで行うのではなく、家族へも依頼し同行していただけるように働きかけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相談時だけでなく、入所後も家族の介護に対する不平・不満を傾聴し、精神的負担の軽減に努めている。帰られる際は「聞いてもらえて気が楽になりました。」の言葉あり。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のお寺やお墓、日常的に続けてきた神社参りなど、スタッフと一緒に出掛ける支援を行っている。	○	時にはご家族と出掛けて頂けるように、ホーム側から働きかけていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事時などコミュニケーションを利用者同士がとりやすいように配慮し、必要時には座席の変更を随時行っている。又、トラブルにならないように早めに仲裁に入り良好な関係が保てるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、いつでも訪ねて頂けるように声掛けを行っている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のスタッフとのコミュニケーションや面会時に、家族に尋ね得られた情報を基に、センター方式を用いてケアプランを作成している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接に始まり、日々のスタッフとのコミュニケーションや介護の中で得た情報を、生活日誌や申し送りノートに記録し、その後の支援に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	休日明けでも生活日誌や申し送りノートを確認し、不在時の状態把握の変化を全スタッフ徹底している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の要望を聞いている。入居者一人一人に担当者が居り、各個人に対し、深く関わる事が出来ている。担当者が中心となり、月1回のモニタリングを実施しプランに反映させている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回及び状態変化時にモニタリングを行い、プランの見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に毎日の様子や実施の状況を記録し、モニタリング時に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時は頻繁に病院に出向き、病状把握に努めると共に、洗濯の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	満床の理由などで、すぐに入所できない方に対しては、在宅サービスや他施設の案内を行っている。		

福岡県 グループホームとまよ ユニット2 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	満床のため入所がすぐに出来ない時など、他のグループホームや地域の居宅介護事業所などの紹介を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所の相談を数件頂き、相互の情報交換を行った。又、紹介された入居者の状態変化等報告し、情報の共有に努めた。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後は母体病院が主治医となり、週1回の往診を行っている。診療項目以外でも母体病院を通し、他の医療機関を紹介できる環境である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院の主治医と相談し、近隣の認知症専門医を受診している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師を採用しており、日常の健康管理だけでなく、状態変化時の対応や指示を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にスタッフが病院へ行き、馴染みの顔を見せる事で、安心して療養出来る様努めている。病院の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り合い、ホームでの療養が可能ならば早期退院を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時より最期まで、ホームで過ごしたいと強い希望があった方で、入院後もその意志は変わらず、関係者間で話し合いの場を持った。ホームでも対応についてスタッフ間で協議を行った。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの生活が困難になられた場合に備えて、入所時に他介護保険施設を紹介し、入所申し込みを呼びかけている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族からの情報提供だけでなく、医療機関や在宅のケアマネージャー等からも情報提供を頂き、入所前にスタッフ間で対応を協議している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る際は声掛け、ノックを行い入室する。トイレ誘導時は可能な限り扉の外で待機している。個人記録は鍵のついた場所に保管し、個人情報についてはシュレッダーで処理している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力により、筆談やジェスチャーを用いたり、必要時には居室や廊下のソファ等で、マンツーマンで利用者が自分の思いを伝えやすい環境を提供している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れに決まりはなく、声掛けしても最終的な決定は本人に任せている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前より行かれていた美容室へ、家族の協力を得て連れて行って頂いている。個人の買い物には基本的に本人に出掛けて頂き、好みの物を選んで頂いている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合うように、嫌いなものを外したり別の物を提供したり、味付けを変えたりしている。野菜切りや皮むき、配膳の準備、食器拭き等、職員と一緒にやっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望により夏場はビール、現在は酒を飲酒されている。酒の買い物も本人と一緒に出掛け、選ぶ楽しさも提供できている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。失敗のないように早めの誘導、声掛けを行っている。それにより入所時、紙パンツ使用の方が布パンツ使用へ移行でき、オムツ使用の方が紙パンツ使用へ移行でき、現在オムツ使用の方はいない。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の健康状態を把握し、くつろいだ入浴が出来るよう入浴剤を使用している。利用者の方の状態や希望を伺いながら入浴を行っている。拒否のある方は時間をおいたりスタッフを代えたりして、早く入浴して頂けるように努めている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠時にはホットミルク等を提供したり、テレビを視聴されたりして、落ち着いて入床していただける様に支援している。入床時パジャマに着替えられることにより、安心して眠られる方もいらっしゃる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯たたみ・干し、食事作り、戸締りなど好きな事、出来ることを把握し、得意な事で役割や生き甲斐が持てる様に支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は本人所持金があり、自己で管理されている。お金を所持する事で安心される方には、定期的にスタッフが確認を行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は、ほぼ毎日行っている。スタッフでも計画をしているが、入居者より季節の行事や花の見学等希望があった時は、すぐに計画を立て対応している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には本人の希望を尋ね、1日を自由に過ごす機会があり、遠方に出掛けたり、好きな物を食べに行くなどの支援をしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との交流が維持できるよう電話で話す機会をケアプランで取り入れたり、手紙が届くと返事を書かれる様促し支援している。	○	暑中見舞や年賀状を本人に書いて頂く機会を作り、家族との交流に繋げていく。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会に来られた時は、職員側から挨拶を行い、お茶やお菓子を提供し、ゆっくり過ごせる空間を提供している。学生時代の古い友人の方も定期的に面会に来て頂き、入居者の方と一緒に写真を撮ったりし、次回も気軽に来て頂ける様工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや声掛けで事故防止に努めており、行動制限や身体拘束は行っていない。身体拘束にならない様、対応方法についてスタッフ間で協議している。	○	管理者だけでなく、スタッフが身体拘束について学ぶ機会を設けていきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠しており、自由に出入りが行えるようにしている。帰宅願望が強い入居者は細やかな見守りを行い、状況に応じて傾聴・散歩の機会を設けている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にはセンサーが設置されており、入居者・外部者の出入りを把握し、事故防止に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人での所持品を把握している。事務所保管・個人所有の危険物はチェック表を活用し、毎日確認を行っている。洗剤や消毒液などは棚の上に置いたりし、目の届かない所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を活用し、今後の対応策等を話し合う場を持ち、事故防止に努めている。行方不明者が出た場合には、写真付きの情報提供書を作成している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員がバイタルを測定できるように入職時研修を行っている。新人職員には消防署主催の救命講習に参加している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導による避難・消火訓練を行っている。日勤・夜勤帯の訓練を実施し、避難・誘導の方法を身に付けている。運営推進会議で地区の代表者の方に協力を呼び掛けている。	○	地震・水害時の訓練を行ってきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時、起こり得るリスク・対応について家族に話し、理解を頂いている。ヒヤリハットが報告された場合には全職員で対応策を話し合い、事故に繋がらないようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行っている。異変・発見時には看護師に報告・指示を仰いでいる。又、朝夕の申し送りを確実にし、経過を共有している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護生活日誌に処方箋を綴じており、薬の内容・副作用等、把握できるようにしている。薬の変更・追加時には看護師より報告・申し送りノートに記載し伝達している。飲み忘れがない様、服薬チェック表に記入している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な方には、トイレ誘導時・入浴時に腹部マッサージや牛乳飲用を行って頂き、排便を促している。食事は食物繊維を取り入れる献立を工夫している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声掛けのみ必要な方や、一部介助・全介助の方等、個別に対応している。月1回、訪問歯科によるブラッシング指導等により、口腔内の清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量・水分摂取量を記録し把握している。メニューはスタッフが入居者・調理師と相談を行い、栄養士による確認を行っている。摂取量が少ない時は好みのものを尋ね、摂取量を確保している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、手洗い・うがいの励行。ハイターや次亜塩素酸を用いて消毒を実施し、予防に努めている。本人・家族の了承のもと、予防接種を実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日熱湯消毒を行い、定期的に冷蔵庫・食器保管庫の清掃を行っている。又、冷蔵庫・戸棚内の食品の賞味期限の把握も確実に行っている。ほぼ毎日、買い物に出掛け、新鮮な食品での調理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や玄関に、花鉢や花を飾り、季節感を出している。日常の写真を飾り、ホームでの生活が分かるようにしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明に気を付けている。壁飾りや玄関やフロア内に、四季の花を飾り、季節感を感じられるようにしている。トイレは24時間換気をしており、廊下やフロアまで臭わないよう、使用後はドアを閉めるよう徹底している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓側にソファを置き、気の合った入居者同士で談話をし、過ごされている。一人用の椅子では日光浴をされながら、気持ちよさそうにうたた寝される姿が見受けられる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持ち込みを依頼して、冷蔵庫・テレビだけでなく御主人の遺灰を持ち込まれ、毎日手を合わせられている。家族の写真や手作りの作品を飾り、安心して過ごせる様な居室作りを行っている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物内は24時間換気されている。1日3回温度・湿度のチェックを行い、必要に応じ、換気・霧吹き・エアコン温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、車椅子でも歩行器でも、自由に移動できるスペースが充分にある。廊下・ホール・トイレ・脱衣所等、手すりがついており残存機能を活かし、安全に生活できるようになっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	筆筒の引き出しにラベルを貼り、片付ける場所が分かるようにしている。独自で困難な方もスタッフと行う事で混乱なく行えている。居室が分からない方は、入り口に分かりやすいように表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に小さい畑があり、畑の手入れや収穫等を一緒に行っている。収穫や草取り等、入居者が自由に出入りされている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常的に買い物や散歩の機会を設け、希望時にはお寺やパチンコ店等への外出も行っている。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果							
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)							
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		②家族の2/3くらいと		③家族の1/3くらいと		④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		②数日に1回程度		③たまに		④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		②少しずつ増えている		③あまり増えていない		④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が		②職員の2/3くらいが		③職員の1/3くらいが		④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		②利用者の2/3くらいが		③利用者の1/3くらいが		④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		②家族等の2/3くらいが		③家族等の1/3くらいが		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常的に買い物や散歩の機会を設け、希望時にはお寺や魚釣り等への外出も行なっている。